

会報 (第8号)

目次

- 亜日友好交流一世紀の軌跡 (下)
- アルゼンチン金融事情の現状と展望
- アルゼンチン近況
 - 政治・経済
- 高級魚ペヘレイの里—安田養魚場を訪ねて
- 阪神大震災へのお見舞い
- 文化行事のお知らせ
- その他のお知らせ
- 現地便り
 - ・タンゴは死なず—ウニオンバーで盛大な演奏会
 - ・タンゴ・バー「ラ・クンパルシータ」
- 人事往来



法人団 日本アルゼンチン協会

会報第八号 一九九五年四月二十日発行

編集人 渡部 康夫

千代田区内幸町一ノ二ノ二
 日比谷ダイビル一七〇五号室
 電話 (三五〇一) 四六八四番
 FAX (三五九五) 三九三二番

『亜国側から見た亜日友好交流一世紀の足跡』(下) (要約)

駐日アルゼンチン大使

ホセ・ラモン・サンチス・ムニョス

○戦後経済交流

昭和20年に終了した世界大戦は、両国関係に一時的な空白期間をもたらしたが、間もなく外交関係が再開され昭和24年に日本貿易ミッションが来亜し、両国間で貿易・金融協定が締結され、又、在亜日本商工会議所も設立された。

日本人移住者の亜国への渡航も再開され、又、戦後の窮乏に苦しんでいる日本国民を援助するため、亜国政府は食料及び救援物資を積んだ船を派遣した。両国間の海上航路も復活した。戦後の亜国の対日主要輸出品目は、麦、大麦、皮革、綿花、羊毛及びタンニンであり、主要輸入品目は織物、鉄鋼、金属製品、化学品及び薬品であった。

○人的交流

昭和26年両国間で平和条約が調印批准され、翌年に両国大使館がそれぞれ再開された。この20世紀後半は、両国の政府要人、実業家、文化人、スポーツマン等が相互に訪問し人的交流が活発化した。即ち昭和32年フロンデイス大統領、昭和54年ビデラ将軍（政府首班）、昭和61年アルフォンシン大統領、平成5年メネム大統領が訪日した。又、昭和54年に世界的に著名な作家ホルヘ・ルイス・ボルヘスが日本で表彰された。他方、昭和32年岸総理、昭和33年田中耕太郎最高裁長官、昭和41年椎名外相、昭和43年現天皇、皇后両陛下である明仁皇太子及び美智子妃両殿下、さらに、昭和54年、56年及び57年に園田外相が訪垂された。特に故大来外相は経済調査団団長として来垂し、彼の名を冠したア国経済に関するレポートを作成し、両国の関係強化に顕著な業績を挙げた。

○経済合同委員会

同世紀後半、経済・金融の分野においてもダイナミックな動きがあり、日亜経済合同委員会が創立され、毎年交互にそれぞれの国で開催され、すでに16回を数え両国間の貿易経済面での提携協力関係の促進を計っている。日本は亜国の対外債務のリスケ（くり延べ）問題にも係わりブレイディープラン適用に協力した。

○技術協力

日本は亜国に対し技術協力も実施し、専門家派遣、機材供与及びアルゼンチン研修員の受け入れ等をJICA（国際協力事業団）が実施しており、又、AOTS（海外技術者研修協会）はアルゼンチン中小企業家を受け入れ研修を行っている。

○文化交流

最後に、優秀なアルゼンチン造形美術家及び音楽家（日本ではタンゴがポピュラーである事を敢えて付言する）が訪日し、又、アルゼンチン作家の本が日本語訳で出版され、アルゼンチン映画も好評を得た。他方アルゼンチンにおいても日本の芸術および文化が評価された。

これら全ての積極的な両国間交流は、今後とも大いに期待できることを確信するとともに、両国民を結び付けている変わらない友情による交流の進展が約束されている。（了）

アルゼンチン金融事情の現状と展望

昨年12月20日、メキシコ政府のペソ対米ドル相場の15%切り下げに端を発したメキシコ通貨危機は、資本市場のボーダーレス化の背景の下、一時は中南米・アジアなどのいわゆるエマージング・マーケットに大きな影響を与えた。「メキシコの次はアルゼンチン」という外国投資家の不安の中でカバロ経済大臣はメキシコとの相違を強調、危機波及の可能性を否定してきた。為替不安は沈静化したものの、流動性不足などの問題を抱えて苦悩しているアルゼンチンの金融不安の現状と展望についてまとめてみた。

1. ドル兌換法

メキシコとの比較で最も重要なことは、アルゼンチンでは経済政策の中核に91年4月より実施しているドル兌換法を置いていることである。この法律は、第一に、マネタリー・ベースは外貨準備で裏付けられるべきこと、さらに1米ドルに対し1ペソで交換を保証、第二に、価値修正を禁止したこと、第三に、外貨による契約を認めたこと……の三点に要約できる。兌換法の施行によりマネタリー・ベースが外貨準備にリンクされ、財政赤字の中銀引受による通貨増発が回避された結果、インフレは収束、また通貨に対する信用を確固たるものとした。兌換法のもとでは外貨準備が減少するとマネタリー・ベースが減少、金融引き締め状況となり、国内金利上昇による内外金利差の拡大と輸入の減少から資本の流入・貿易収支の改善による外貨準備の増加という自動調整機能が働くとされる。外貨準備の裏付けのない通貨発行は禁じられているので、政府は対外債務支払いの為には財政黒字によるペソ資金で外貨を購入しなければならない。同様に金融機関救済のために中銀が「最後の貸し手」となることはできない。アルゼンチン政府は通貨不安を払拭し内外に為替相場維持の決意を表明するために1月12日、第一に、中銀及びナシオン銀行でのドル交換相場は1対1とすること（従来は、売相場、買相場があった）、第二にペソ預金・ドル預金の預金準備率を同一としたこと、第三に、市中銀行のペソ預金用の中銀預け金はドル預け金に変更…という内容の中銀回状が公布された。これにより、ペソ金利押し下げ効果が働きペソ金利・ドル金利は同一水準に向かうものと期待され、経済の一層のドル化が進められた。

2. 金融不安

為替不安は解消したが株式市場は下落し続けた。94年12月19日から95年2月15

日の間の株価下落率はメキシコ17.9%、アルゼンチン37.1%、ブラジル41.8%であり、アルゼンチンの株価指数は3月初めにボトムをうち反転したが未だ2月中旬のレベルである。アルゼンチンでは多くの両替商が商業銀行に転換、その中には株式投資、エマージング・マーケット投資による損失により経営が行き詰まった投資銀行が発生した。株価下落以上に金融界にとって深刻な問題は、メキシコ通貨危機と政権交替という国内的不安心理により引き起こされている資金の流出である。

預金と外貨準備の減少状況は次の表の通りである。

	94/12/19	95/3/15	増減	(単位：100万ドル)
				%
ペソ預金	22,967	17,598	▲5,369	▲23.4
ドル預金	23,050	21,497	▲1,558	▲6.7
預金合計	46,017	39,095	▲6,922	▲15.0
外貨準備	14,990	11,386	▲3,604	▲24.0

3ヶ月の間にペソ預金の四分の一が流出し外準の四分の一を失ったことが上の表から読みとれる。これは預金者がペソ預金を引き出し、ドルを購入し資本逃避（モンテビデオへの預金、アルゼンチン国内の貸金庫へドル現金退蔵）したことを示している。預金の減少は、金融機関の流動性不足を招来し、コール金利は上昇し3月上旬には一時80%に達した。このような金融不安の中で資金難に陥り業務停止命令を受ける銀行が発生、中小の銀行を中心として吸収、合併を生き残る途とし多くの銀行が選択した（すでに35行が合併して11行となった）。州立銀行の資金内容の悪さと金融規模に比して銀行数の多いこと（現在約170行）が、アルゼンチンの銀行システムの問題点として指摘されてきたところでありカバロ経済大臣も「銀行の破産をさけるためには合併を進めるべきであり銀行数が100行程度に減っても驚かない」と言っている。

3. 施策と展望

政府は銀行の救済と政府部門の支払外貨の確保という直面している問題に対応するべく次のような施策を発表した。

(1) 財政対策

財政黒字のため2月27日、3月13日に財政均衡策が発表された。その内容は、公務員の給与削減、公共支出の削減、付加価値税の引き上げ（18%より21%へ）、輸入統計税（3%）の復活、企業の社会保険負担率の引き上げ、輸出払い戻し税の廃止、個人資産税の課税対象資産の拡大などであるが国会での法改正を要するものもあり、これからの国会審議を注目して行かねばならない。

日の間の株価下落率はメキシコ17.9%、アルゼンチン37.1%、ブラジル41.8%であり、アルゼンチンの株価指数は3月初めにボトムをうち反転したが未だ2月中旬のレベルである。アルゼンチンでは多くの両替商が商業銀行に転換、その中には株式投資、エマージング・マーケット投資による損失により経営が行き詰まった投資銀行が発生した。株価下落以上に金融界にとって深刻な問題は、メキシコ通貨危機と政権交替という国内的不安心理により引き起こされている資金の流出である。預金と外貨準備の減少状況は次の表の通りである。

(単位：100万ドル)

	94/12/19	95/3/15	増減	%
ペソ預金	22,967	17,598	▲ 5,369	▲ 23.4
ドル預金	23,050	21,497	▲ 1,558	▲ 6.7
預金合計	46,017	39,095	▲ 6,922	▲ 15.0
外貨準備	14,990	11,386	▲ 3,604	▲ 24.0

3ヶ月の間にペソ預金の四分の一が流出し外準の四分の一を失ったことが上の表から読みとれる。これは預金者がペソ預金を引き出し、ドルを購入し資本逃避（モンテビデオへの預金、アルゼンチン国内の貸金庫へドル現金退蔵）したことを示している。預金の減少は、金融機関の流動性不足を招来し、コール金利は上昇し3月上旬には一時80%に達した。このような金融不安の中で資金難に陥り業務停止命令を受ける銀行が発生、中小の銀行を中心として吸収、合併を生き残る途とし多くの銀行が選択した（すでに35行が合併して11行となった）。州立銀行の資金内容の悪さと金融規模に比して銀行数の多いこと（現在約170行）が、アルゼンチンの銀行システムの問題点として指摘されてきたところでありカバロ経済大臣も「銀行の破産をさけるためには合併を進めるべきであり銀行数が100行程度に減っても驚かない」と言っている。

3. 施策と展望

政府は銀行の救済と政府部門の支払外貨の確保という直面している問題に対応するべく次のような施策を発表した。

(1) 財政対策

財政黒字のため2月27日、3月13日に財政均衡策が発表された。その内容は、公務員の給与削減、公共支出の削減、付加価値税の引き上げ（18%より21%へ）、輸入統計税（3%）の復活、企業の社会保険負担率の引き上げ、輸出払い戻し税の廃止、個人資産税の課税対象資産の拡大などであるが国会での法改正を要するものもあり、これからの国会審議を注目して行かねばならない。

(2) ファイナンシャル・パッケージ

95年の政府部門の外貨支払は元本52億ドル、金利40億ドルとされており、商業銀行救済資金をも含めて3月13日に以下のような資金調達計画が発表された。借入については各機関と交渉中のところが大部分であり交渉の経緯をフォローしてゆく必要がある。

(単位：100万ドル)

財政黒字	2,000
民営化収入	1,000
政府保有債売却	1,400
財政収入計	4,400
IMF	2,400
世銀	1,300
米州開銀	1,300
国債（アルゼンチン企業引受）	1,000
国債（海外民間銀行引受）	1,000
借入合計	7,000
総合計	11,400

(3) 銀行救済策

中銀による介入銀行の預金者に対する預金保証、世銀・米州開銀借入金を原資とする銀行救済のための信託基金、預金準備率の引き上げによる特別資金による信託基金などが政府当局により検討されている。

91年以来、メネム大統領の政治的支持を得てカバロ経済大臣による兌換法を堅持した経済運営が行われてきたし今後も継続されることが明らかにされている。今回の金融不安に対しても国内および国際金融機関・外国政府に対して迅速に対応、自助努力による対策と国際支援の要請を行った。株価はある程度戻してきた。貿易赤字も95年2月は1.5億ドルと昨年同月の月平均赤字5億ドルを大きく下回っており、今年の貿易収支は大きく改善されるだろう。銀行再編成が進み強固な銀行システムの構築につながってゆくことを期待したい。

(筆者：東京銀行 小林晋一郎氏)

アルゼンチン近況

◎政治・経済

○JICA アルゼンチン経済開発調査（大来Ⅱ調査団）

国際開発センター河合会長、国際協力事業団（JICA）松田基礎調査部課長他より構成される調査団は3月13－25日現地にてア側カウンターパート（経済省）と1994年度実施した第1次調査報告書（インテリムレポート）に係る最終内容の詰めを行うと共に1995年度の第2次調査テーマを下記の通り決定した。

日本をはじめとする東アジア諸国へのア国産品の輸出促進と同諸国からのア国向け投資促進を目的とし下記4テーマを実施する。

1. ア国輸出・投資振興機関（輸出財団、投資財団、貿易投資銀行）の活動強化
2. ア国特定主要輸出産品を選定しこれらに係る日本を主体とする東アジアマーケット調査並びにア国競争力分析・調査
3. ア国中小企業（特に輸出企業）の育成・強化
4. 輸出関連運輸インフラの開発・強化

また、1995年中にア国にて上記インテリムレポート（特に東アジア7ヶ国調査結果）につき官民を対象とするセミナーを開催する予定。

○オオキタ財団1995年度活動

オオキタ財団はア国経済省の支援補助金を得て1995年度の活動を強化中にて以下その主たる内容をご紹介します。

1. ア国財団本部内に日ア経済関係の強化に資する日本の経済や産業に関する資料センター（図書館）を設立中で日本政府・民間刊行物（英語版）を主体に約50冊収集、引続きその内容充実を計る。
2. 1994年7－8月に国際開発センターがJICA大来Ⅱ調査の一貫として実施し11月開催の日亜経済合同委員会で発表した〈対ア国貿易・投資促進に関する日本企業アンケート〉をベースとしオオキタ財団が1994年11月－1995年3月同様テーマに対するア国一流企業対象のアンケートを実施結果約100社より回答を入手、財団では日本側とア国側の回答を対比したレポートを作成の上、先ず4月中にア国にて発表会を行う。同レポート内容については本会報第9号にてご紹介する予定。
3. 本年6－8月中に日本の産官学何れかの代表的講師をア国に招聘しセミナー開催の予定。

（筆者：国際開発センター 斉木茂治氏）

○5月14日の大統領選挙にむけてペロン党の副大統領候補に誰が指名されるか注目されていたが、1月2日カルロス・ルカウ現内務大臣を選出したと発表された。ルカウは75年にペロン政権の労働大臣として初入閣、89年から2年間イタリア大使をつとめた。

○失業率は年2回公表されるが94年10月の失業率はコンバーティビリティ・プラン施行以降、最悪の12.2%に達したことが明らかになった。

○労働市場硬直性は正のための、政府、労組、中小企業経営者の三者間で話し合いがおこなわれてきたが95年1月に合意が成立した。新規採用従業員の試用期間を原則90日にすること、解雇の場合の補償金支払い、賞与の3回分支払いなどが定められた。

アルゼンチン全労働者の70%が中小企業（従業員40人以下或は今後決められる年間売上高の上限以下の企業が中小企業と定義される）に就労している。

○大手製紙会社アルト・パラナ社は、3月4日に予定されていた60百万ドルの社債の利払いおよび償還ができなくなったと発表した。

同社は好市況に支えられて業績は良好であったがメキシコ通貨危機の波及により、海外での資金調達に失敗し、債務不履行を余儀なくされた。同社に続き、二輪組立メーカーのサネラ社が10百万ドルのコマーシャル・ペーパーの支払い不履行の状況に陥った。

○米国四輪組立メーカーのアルゼンチン再進出、設備投資が報道されている。各社の投資額は、GM4億ドル、フォード10億ドル、クライスラー8千万ドルと伝えられている。

（筆者：東京銀行 小林晋一郎氏）

高級魚ペヘレイの里
安田養魚場を訪ねて

アルゼンチンの魚が、関東平野の一角に20万匹。かつて誰がこの光景を想像しただろう。それをわれわれは、埼玉県大里村にある安田養魚場に実現した。昨年11月末、秋の関東平野は、抜けるような青空が広がっていた。

一万平方メートルの敷地に養魚池、80トン水槽（直径10m×高さ1m）17基、30トン水槽（6m×1m）2基、13トン水槽（4m×1m）6基、計25基にアルゼンチンの魚、ペヘレイが20万匹（うち成魚7000匹）が勢い良く遊泳していた。入り口に近いとこ

ろに稚魚池8トン水槽7基、13トン水槽1基にも大量の稚魚が細心の水質管理のもとで育まれていた。問題の水は、常時2500トンの良質の井戸水が還流しており、年間を通じほぼ同一温度が確保できている。

ペヘレイ (Pejerrey) とは、「魚の王様」の意。中南米の淡水魚、汽水域、そして海水域まで広く分布している。トウゴロウイワシ科に属する魚で、魚体は60cm以上にまで成長するが、性質はおとなしく、物音や震動、光による明暗などに、とくに敏感に反応する臆病なところもある。イワシなどと同じように群れを作って行動し、海から河川に遡上したり、逆に海に下ることがある。姿はサヨリに似て、肉質は白身、クセがなく、コシがあって甘みがある (安田株式会社案内より)。

アルゼンチンから日本への移植は20年以上前から試みられた。最初は故内山神奈川知事の肝入りで相模湖へ移植され、いまは丹沢湖で放流されている。しかし本格的な移植は学生時代 (日大水産学科) からペヘレイに魅了された安田直弘さん (当協会監事) の長年にわたる研究と汗によるものだった。いまや安田養魚場は、年間30万匹の稚魚を国内各地へ配布し、成魚の販売は20トン (10万匹) に及んでいる。

ペヘレイは母国アルゼンチンとは違って、日本では高級魚として売り出されている。数年前、春日部の大型ショッピングセンター・ロビンソン (本社ロサンゼルス) の開店披露のとき、高級魚として鯛の三倍の値段で飛ぶように売れ、品切れになった。

その後、「各地からも引き合いが続き、20名の社員がフル稼働しても、注文に応じきれないのが悩み」と安田さん。いまやアルゼンチンの〈魚の王様〉は、日本で〈高級魚〉としての華麗なデビューに成功している。

安田さんのご案内で養魚場近くの寿司屋で、ペヘレイの「にぎり」を頂く。透き通るような白身は歯応えがあり、サヨリよりやや甘みのある高級魚の風味。「ブエノスで食べたのと全然違う。こんなに歯応えがあるとは」と渡部事務局長。六本木の“もみじ家”と“カンデラリア”でも、ペヘレイ料理が食べられる。このほか刺身 (うす造り)、天ぷら、焼き物、酢の物などペヘレイはむしろ日本での活躍舞台が広いようだ。

「一度、協会の有志の皆さん、見学に如何でしょうか。歓迎します」長年の苦闘を乗り越えて、男の夢を実現した安田さんの目が輝いていた。

(註) 日本アルゼンチン協会では、秋ごろ「安田ペヘレイの里、日帰りツアー」を計画しています。詳細は会報でお知らせします。

阪神大震災へのお見舞い

- 1月20日、メネム大統領より村山首相あて、丁重なお見舞いの口上書をもって、アルゼンチン国民を代表し、深い悲しみとお見舞いの念を述べ、同国民も大きな痛みを抱き、遺族の方々に深甚なる哀悼の意を表明されました。
- アルゼンチン大使館に確認したところ、在日アルゼンチン人の被災は幸いにも報告されていません。
- 当協会員一同、被災された方々への心からのお見舞いと一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

文化行事のお知らせ

●講演と映画

5月20日（土） 11：00～15：00 サントリー東京支社4階A会議室
（港区元赤坂1-2-3）

（銀座線および丸の内線「赤坂見付」駅下車、辨慶橋出口徒歩1分）

会費：1人 ¥1,000（当協会会員）（サンドイッチ、飲物付き、当日徴集）

1人 ¥1,500（非会員）（ “ ” ）

プログラム：

「ハドソンとアルゼンチン」：講師・藤本芳男（元駐アルゼンチン大使）

「ハドソンの足跡を訪ねて」スライド上映

：寺島和光（神奈川県立こども病院部長）

：寿岳和子（ハドソン友の会 駐日代表）

「緑の館」原作：W. H. ハドソン（105分）

VTR映画 主演：オードリー・ヘップバーン

主催：当協会 協力：サントリー株式会社

お申し込みおよび取り消しは5月17日（水）まで同封返信用はがきにてお願いします。

17日以降キャンセルの場合は後日会費を請求させていただきます。

お問い合わせは、当協会事務局 TEL 03-3501-4684

●ポリリー・フェルマン（駐日アルゼンチン大使夫人）のピアノ・コンサート

前号でご案内しましたサンチス大使夫人の南米音楽コンサートが2月3日東京文化会館で開催され、高円宮殿下ご夫妻、土井衆議院議長、河野外相夫人、駐日各国大使夫妻等もご出席され盛況であった。

同夫人は引き続き、「南米のパッション」に出演しますのでご案内します。

6月9日（金）19：00 グリーンホール相模大野 多目的ホール
（小田急線「相模大野」駅西口下車 徒歩5分）

入場料： ¥ 1,000（自由席）

連絡先： 0427 - 49 - 2200

●タンゴをあなたに（TANNGO PARA USTED）

（阪神大震災身障者支援チャリティーコンサート）

6月30日（金）19：00 横浜市教育文化ホール
（JR「関内」駅前、地下鉄・「伊勢佐木長者町」駅又は
「関内」駅下車 徒歩5分）

演 奏： 岩崎滋之とタンゴ・コスモス

歌： 小原みなみ（当協会会員）

入場券： ¥ 4,500（前売：自由席）

連絡先： オフィス小原 ☎045 - 716 - 2612、045 - 712 - 0066

その他のお知らせ

●会費の納入について

平成7年度分の会費（法人会費、個人正会員費及び賛助会員費）につきまして、夫々請求書を会員各位宛送付致しますので、何卒よろしく納入お願い申し上げます。

なお、新会員を募集しておりますので、ご勧誘願います。

●総会の開催について

社団法人「日本アルゼンチン協会」第39回総会は来る5月23日（火）午後2時半より、当協会の日比谷ダイビル（4階会議室）で開催予定です。（法人会員及び個人正会員には別途通知申し上げます。）

●アルゼンチン旅行の予告案内

当協会は、近畿日本ツーリスト（株）が企画している「第一回アルゼンチン・ツアー旅行」に助言協力しており、10月又は11月中旬に10日間のツアーを考えております。日程案（タンゴ・ショー、ハドソン博物館、鯨、ペンギン見学、オプションとしてゴ

ルフ)については次号(7月発行)に掲載予定ですので、今からたのしみにご期待下さい。

●アルガロボの苗木の無料頒布

サントリー(株)のご好意によって、アルゼンチンを代表するとも言える木、アルガロボ(Algarrobo、和名シロイナゴマメ)の苗木を無料で同社が頒布します。この苗木は、日本とアルゼンチンの友好のしるしとして先年アルゼンチンから贈られた種子をサントリー愛鳥基金が育てたもので、いま1メートル位ですが成長すると巨木になります。果実は美味で、また実を挽いた粉はパンとして、さらには水と混ぜて甘い飲み物として珍重されます。丈夫な木材は家具として、また鉄道の枕木などとして使われるなど「生命の木」としてアルゼンチンを代表する木とされています。

苗木をご希望の方は4月末迄に下記にお申し込み下さい。手紙、はがき又はFAXでお願いします。

サントリー(株)文化事業部(〒107 東京都港区赤坂1-2-3)

愛鳥キャンペーン係

TEL: 03-3470-1115 FAX: 03-3470-3385

なお、苗木および梱包の費用はサントリー(株)が負担しますが、運送費は着払いにさせていただきますので、ご了承ください。

現 地 便 り

◎タンゴは死なず—ウニオンバーで盛大な演奏会

有名なタンゴ曲「センチミエント・ガウチョ」(ガウチョの歎き)が生まれた「ウニオンバー」はサンテルモ地区のパセオ・コロ南通りインデペエンデンシア通りの角にある古いタンゴ・バーである。

最近ブエノス・アイレス市文化局後援の下にタンゴ・ショー「ポルテーニョの夕べ」を開催し、多数のタンゴ・ファンが懐古した。因みに、約2年前にかの有名な「ビエホ・アルマセン」が閉店され、数少ない伝統あるタンゴ・バーの一つで観光客の垂涎の店である。

(らぶらた報知)

◎タンゴ・バー「ラ・クンパルシータ」

アルゼンチン・タンゴのファンなら誰でも知っているタンゴの名曲「ラ・クンパルシータ」の名を冠したタンゴ・バーがブエノス・アイレス市サンテルモ地区のチリ通

りとバルカルセ街角にある。同バーでは「ピチュキート」楽団を指揮するオスバルド・リッを中心にして大物歌手アルベルト・モラン及びアルベルト・ポデスタの他にタンゴ・ダンスの出演がタンゴ黄金時代の郷愁を彷彿させてくれる。この店の特徴は、外人観光客を対象とした「カサ・ブランカ」や「ミケランジェロ」と違って、タンゴそのものの雰囲気を楽しめ、また、タンゴ・ダンサーが客席に来て客を踊りに引っぱり出してくれるので一度のぞいて見るのも面白い。

(らぶらた報知)

人 事 往 来

1. 来 日

- ロベルト・アウセロ (ギターリスト) 1月下旬
- サッカーチーム：アスレコ・ロサリオ・セントラル
横浜マリノスに2対0で勝 2月19日
全日本オリンピックチームに0対1で敗 2月26日
JAL CUP レコパ・ファイナル (4月9日)
インデペンディエンテ 1対0でベレス・サルスフィールドに勝
- マック経済顧問 (JICA 研修) 2月18日～27日
- ゴルダラセナ経済省日本・東アジア担当課長 (同研修) //
- アルゼンチン青年 (10名) 招聘計画 2月11日～25日
- ベキンシュテイン経済省東アジア分析室長 (中堅指導者) 3月15日～24日
- アマデオ・クラリン紙副編集長 (記者招待) 3月22日～31日
- カバロ経済大臣 3月30日～4月1日

2. メネム大統領長男 (カルロス・ファクンド) 事故死 (ヘリコプター墜落) 3月15日

3. 外務省人事異動 (4月1日付)

在アルゼンチン 伊神 修公使→在スペイン大使館へ
在スウェーデン 山口 英一参事官→在アルゼンチン大使館へ

あ と が き

○次号 (第9号) は7月下旬発行で、「アルゼンチンに留学したい—ホームスティ制度」等を掲載する予定。